令和６年７月24日総合計画審議会専門部会Ａ－１
参加者：蘆田委員　佐藤委員　嶋野委員　西村委員　欠席：廣瀬委員
ファシリ：西村委員（山田さん欠席のため委員が兼任）　板書：天野

①安心して生み育てることができる子育て支援
≪評価≫
委員
妥当　仕組み自体が拡大しているのと時間差で効果も出てくると思うため。子育てに関する計画の策定がされるということも評価できる。

委員
妥当でない（D）　維持することが大変な状況である。Dが悪いというイメージがあると思うので、維持しているという評価のランクをCにしたらいいのではないか。

委員
妥当　成果指標をみると前進したとは言えないが、様々な取り組みを行っていることから前進したとしている。成果指標をみると、大多数が育児を楽しいと感じていることがわかるが、そうでない約１０％に対してどうしていくのかというところ。

委員
妥当　少子化が進む中で、子ども医療費給付事業の対象年齢の拡大など、子育て世代が安心できる取り組みを行っていたため。

≪今後の取り組み対する意見≫
委員
成果指標に上がっている以上は、アンケートの結果をしっかりと分析して見極めてほしい。子どもの意見をどう吸い上げていくかが重要になってくる。子どもたちがどう考えているかを施策に取り組むことも必要なのではないか。

委員
アンケート結果をもっと掘り下げて指標を判断するべき。アンケートから分析して、町民の具体的な要望を聞くなどの取り組みをしたらいいのではないか。

委員
成果指標②について、地域全体として子育てに寛容で協力的な雰囲気づくりの啓発について、具体的にこれからどうしていくのか。

委員
地域の協力のもと安心できる子育て支援。子育て世代と地域の人のマッチングをしてもらいたいと思う。

佐々木子育て支援課長
乳幼児健診については、自前で問診を行っているため分析をしている。住民意識調査については、政策推進課と協議して進めていきたい
地域全体として子育てに協力的な雰囲気づくりという所では、広報で今年 5 月まで子育てに関しての連載を行っていた。発達障害の理解などをきっかけとしていて、そこだけじゃなく広くできた。ダイイチにキッズカートを導入したことの周知や子どもの権利条例の周知。芽室町は子供を大事にしているということを発信していくのが大事で、それに繋がる政策をしていければと思う。

・評価に関して（休憩時間の中で）
成果指標で評価を判断するのが難しい。

②子育て環境の充実
≪質問の中で生まれた意見≫
委員
成果指標でいえば、策定時と比べて微減しており、３.施策の達成状況では、「成果は変わらなかった」としていて、評価するときに何を基準にしたらいいのかわからず難しい。

佐々木子育て支援課長
３.施策の達成状況で「成果が変わらなかった」としているのが、成果指標が下がっている一方で、成果指標②の保育所待機児童数が 0 を維持することが、かなり大変なことである。成果指標は変わらずだが、エアコンなどの取組を進めたということを加味して前進したと評価している。

≪評価≫
委員
妥当でない（D）　待機児童に関して大変であったということだが、前進したと評価できる部分が何なのか。エアコンの設置で成果指標の数値が上がっているわけではない。限られた部分だけで評価すると D である。

委員
妥当でない（D）　前進したと感じられる取り組みがなかった

委員
妥当でない（D）　３.施策の達成状況で「成果は変わらなかった」としており、取り組みからも維持しているということでいいのではないか。

委員
妥当　待機児童が 0 人ということと、よりよい環境づくりのための取り組みをしているため。

≪今後の取り組みに対する意見≫
委員
子供の成長を促すことを考えた時におやつは出してあげたい。学童に行っている子は、親が働いていて、帰ってもすぐご飯を食べられない状況のため、子どものことを思うとおやつを出してあげたい。

委員
おやつがなくなった経緯を知りたい。

委員
共働きが増加しているので、保育士の確保がむずかしいと思うが、保育士が安心して働ける労働環境の聞き取りなどもしてもらえたら。他の委員と同じく、おやつを出してあげたらいいのではないか。

委員
働くことが広がっている中で要望も変わってくる。寄り添っていかなければならない。
おやつに関して、あった方がいい。

佐々木子育て支援課長
おやつがなくなった経緯について、月額 6 千円でおやつの提供をしていてそんなに払うならいらないという人もいた。学童は、保護者が働いていたら入るところだが、全児童対策に移行して職員の数なども増えた。学童には提供して児童館には提供できないなど、おやつをなくす代わりに利用料を無償化するという結論になった。おなかすくだろうという意見もわかるが、双方、同様に対応できないことや、職員の負担もあり、再開するのは難しい。

③生涯を通じた健康づくり

≪質問の中で生まれた意見≫

委員

病院が、健診に力を入れていると思う。病院と協力して、取り組んでいったら、受診率を上げていくことができているのではないか。やり方によって伸ばしていける部分。

森健康福祉課長

病院との連携については、病院が独自で発信していることもあり、相乗効果がある。

≪評価≫

委員

妥当でない（C）　特定の人たちにとって行動変容があったことが評価できる。情報が届いていない住民については働きかけが必要でないか。

委員

妥当　成果指標①について、町民がどう感じているかとして維持していると評価するのが妥当である。

委員

妥当　冷静に判断している。大切なのは、良い評価でなくて問題を意識すること。町民にどうしていくか。現状を認識している評価で、そこからどう取り組みをしていくかが大事。

委員

妥当　全体的に見て現状維持という印象。

≪今後の取り組みに対する意見≫

委員

受診率が高いところの調査をしたその後はどうなっているのか。

森健康福祉課長

町で取り組めそうな受診率が高いところの情報をもらって、取り組んでいきたい。去年調査して、電話を徹底的にしているところもある。今年は、電話かけを毎日取り組んでいる。

委員

成果指標間②、１１月判明とあるが去年はどうだったのか。

森健康福祉課長
令和４年度は、38．6%。令和５年度は、ここまで行かない兆し。

委員
歩いたらＭポイントがもらえる制度は、参加者がやる気を見せて歩いている印象。遊び心をうまく利用するのがいい。楽しいイメージでアプローチしていくのはいいこと。健診受けたらもっと多くのポイントをプレゼントなど。

中元保健推進係主査
健診を受けると４００ポイント。がん検診でそれぞれＭポイント５００ポイントをプレゼントしている。

委員
最近子どもに「健康診断受けているか」など聞かれる。子どもからそう言われると、家族のためにも健康を維持しないといけないと思う。色々なアプローチの仕方がある。

委員
働いていて忙しいから、健康診断を先延ばしにしてしまうと思う。リピーターが少ないことに繋がっていると思う。なにかメリットがあれば。

委員
女性の多い職場におり、健康診断の担当しているときに、健康診断を受けるとお昼に弁当が出てくることに喜びの声をよく聞く。もので誘発するのもいいのではないか。

委員
住民意識調査の健康的な生活習慣を身に付けているかの調査では 30 代の回答が 50%を下回っている。習慣を身に付けるには、ハード面・ソフト面で環境を整えないといけない。プールなどの施設は整っているので、講座などを行ったり、住民のニーズを受けて、他の課と連携して改善策をなにかできればいいのではないか。

森健康福祉課長
健康福祉課だけでできることは限られているので、他の課に相談を始めている。それぞれの部署で、連携してやってもらったり、できることの声掛けを始めている。ソフト部分も相談して行っていきたい。